

◎注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー
& アジア・新興国FXフラッシュ (2024年3月号)

2024/2/29
りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し

※各マーケットコメントは2月29日（木）9:00現在
※休日の実績は前営業日

		2月28日現在 (矢印は1月末比)	3月の予想
USD	ドル・円 (円)	↗ 150.70	↘ 135.00 ~ 155.00
	いよいよ日銀がマイナス金利解除か		
EUR	ユーロ・ドル (ドル)	↘ 1.084	⇒ 1.00 ~ 1.13
	ユーロ・円 (円)	↗ 163.33	↘ 150.00 ~ 170.00
GBP	徐々に上値の重さが意識される展開		
	ポンド・ドル (ドル)	↘ 1.266	⇒ 1.20 ~ 1.32
AUD NZD	豪ドル・円 (円)	↗ 97.90	↘ 95.00 ~ 100.00
	NZドル・円 (円)	↗ 91.79	↘ 88.00 ~ 94.00
株式 相場	リスク選好で買われやすいが、上値も重くなりやすい		
	日経平均 (円)	↗ 39,208	↗ 37,000 ~ 41,000
長期 金利	ハイテク銘柄への期待は継続も年金基金の売り余地から上昇幅は限定的か		
	NYダウ (ドル)	↗ 38,949	↗ 37,000 ~ 41,000
	ハイテク株主導で小幅上昇を見込む。エヌビディアの好決算はバリュエーション拡張をサポート		
	日本 (%)	↗ 0.695	↗ 0.50 ~ 0.90
	春闘での賃上げ継続を確認し、日銀がマイナス金利解除へ		
	米国 (%)	↗ 4.264	↘ 3.80 ~ 4.50
	利下げ期待は既に十分後退した		

◆ 今月の注目ポイント

今年最大の国内注目イベント

テーマ	注目度	今月の注目ポイント
春闘	★	【春闘集計速報】3/15に春闘における賃上げ率の第一回速報が公表される。この数字が2024年の国内最大の経済イベントと言っても過言ではない。前年の実績である+3.6%を上回る数字となれば、日銀によるマイナス金利解除を含めた金融政策正常化が一層現実味を帯びる。なお、事前の各種アンケート調査では良好な結果がほぼ確実視されている。
金融政策	◎	【日銀会合】【FOMC】上述の春闘速報を確認後、3/18-3/19の日程で日銀会合が開かれる。良好な数字が出ていれば、この会合でマイナス金利解除が実施される可能性が高い。また、3/20にはFOMCが開かれる。今回利下げが実施される可能性はほぼ消滅しているが、更新されるドットチャートにより、改めて今後の利下げパスの織り込みが再構築される。パウエル議長の記者会見の内容から、利下げ時期やペースを読み取る動きもでるだろう。

◆ アジア通貨見通し

人民元・円	⇒ 19.85 ~ 21.52	ルピー・円	⇒ 1.73 ~ 1.83
バーツ・円	↘ 4.00 ~ 4.30	ウォン・円	⇒ 10.63 ~ 11.56
ルピア・円	⇒ 0.92 ~ 0.97		

◆ 今月の重要日程

1日 (金) 日	1月労働力調査	12日 (火) 米	2月CPI
1日 (金) 中	2月製造業PMI	19日 (火) 日	日銀金融政策決定会合
1日 (金) 欧	2月CPI	20日 (水) 米	FOMC (結果発表)
1日 (金) 米	2月ISM製造業	29日 (金) 日	2月労働力調査
4日 (月) 米	2月ISM非製造業	29日 (金) 日	2月鉱工業生産
8日 (金) 米	2月雇用統計	29日 (金) 米	2月個人所得・消費支出

© 注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

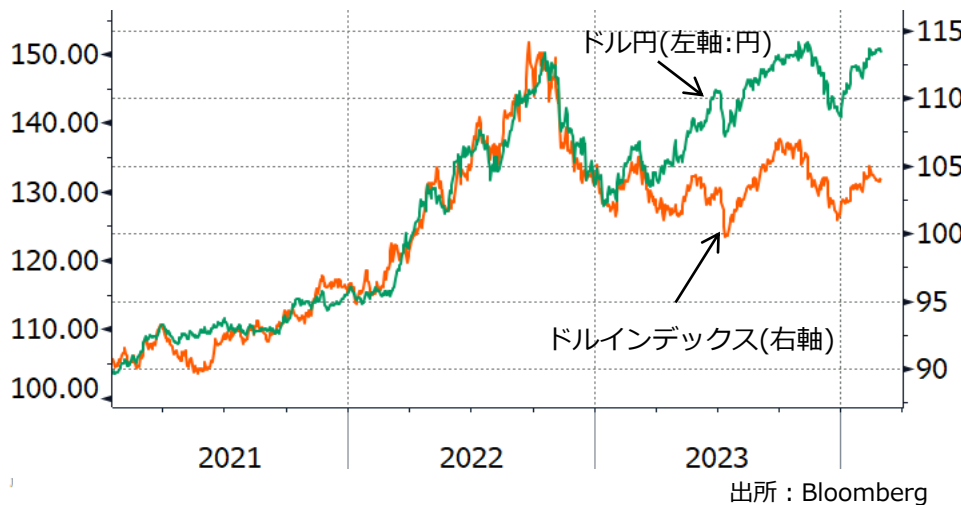
(2024年3月号)

2024/2/29

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し① 為替 (ドル・ユーロ)

ドル 円



米ドル円



ドル円は下落

135.00 – 155.00円

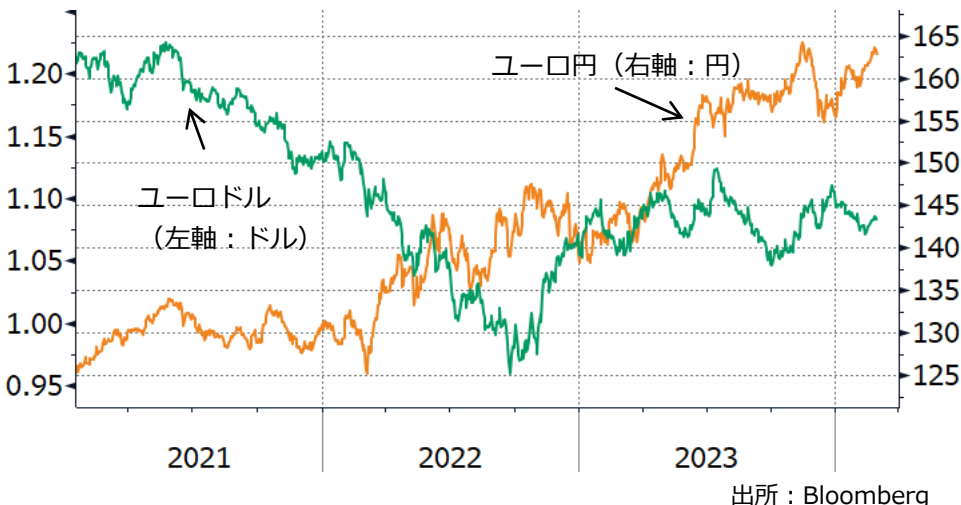
いよいよ日銀がマイナス金利解除か

2月のドル円相場は右肩上がりに上昇し、一時151円台に迫る場面もあった。昨年11月の高値から年末にかけての下落分をほぼ全戻した格好となった。米国経済指標の上振れが続き米国経済の底堅さが意識されるなか、CPIやPPI等のインフレ関連指標も市場予想を上回ったことで、過度に織り込まれていたFRBの利下げ期待が一段と後退したことが背景。

国内では内田副総裁の講演が注目された。マイナス金利解除後の利上げペースが非常に緩やかとなることが意識され、円安が進んだ。日経平均株価が市場最高値を更新したこともリスクセンチメントの改善を通して円売りに繋がった可能性がある。

一方、日銀による早期マイナス金利解除はほぼ確定的な状況であり、3月の会合にて実施される可能性は十分にある。内田副総裁が「きわめて緩やかなパス」と表現した利上げペースは2年で50bpの利上げを想定しており、マイナス金利解除で利上げが終了するわけではないだろう。マイナス金利解除後の利上げが意識されれば再び日米金利差の縮小に目が向くだろう。一方、その先の利上げが示唆されない「ハト派的利上げ」に留まった場合はむしろ材料出尽くし感が醸成されて一段の円安となる場合がある。152円の高値を更新する場面では為替介入も検討されよう。

ユ ー ロ



ユーロドル



ユーロドルは横ばい

1.00 – 1.13ドル

ユーロ円



ユーロ円は下落

150.00 – 170.00円

徐々に上値の重さが意識される展開

2月のEURは堅調な米国経済指標を受けたドル高の動きを受け上値重く推移する場面もあったが、月の半ばから反発し、前月比横ばい圏での推移となっている。1月のECB理事会がハト派的と捉えられ下落していたものの、ECB高官による早期の利下げ期待をけん制する発言が相次いだことで、押し戻される格好となった。対円では株高に伴うリスク選好の流れを受け堅調な推移となった。

3月のEURは上値の重い展開を見込む。足元のユーロの底堅さは一部ユーロ圏の経済指標の予想を上回る改善も影響していると見られる。一方米経済は引き続き堅調な中で、米利下げ期待はもう一段後退する可能性があり、EURの上値を抑えよう。一方、インフレの低下と景気の減速感は米国対比強いものの、ECBは1-3月期の賃金等のデータを見極めたいとの意向から、拙速な利下げは見込みづらく、同じく利下げが見込まれるUSDとの綱引きの展開が継続しよう。対円では日銀の3月以降のマイナス金利解除への思惑からEUR安JPY高を見込む。

© 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

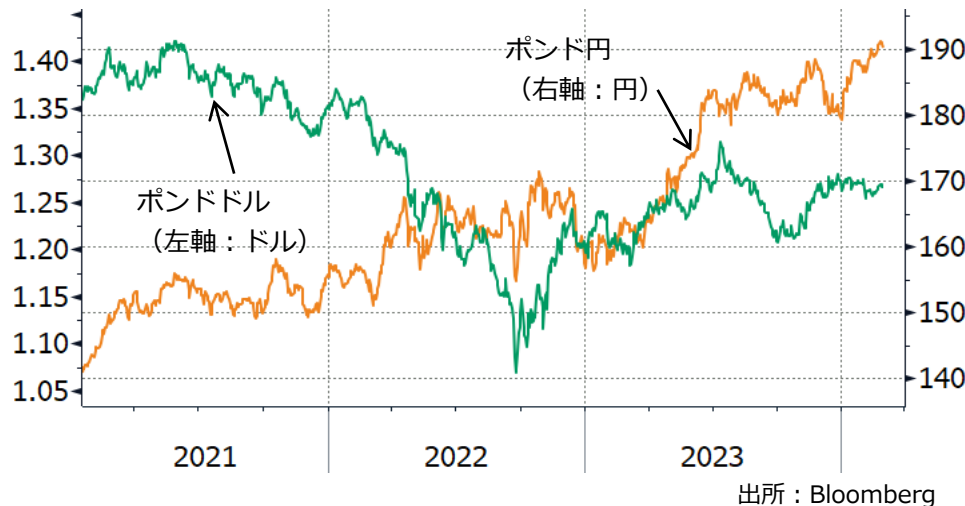
(2024年3月号)

2024/2/29

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し② 為替（ポンド・豪ドル・NZドル）

ポ ン ド



ポンドドル

→ ポンドドルは横ばい

1.20- 1.32ドル

ポンド円

↘ ポンド円は下落

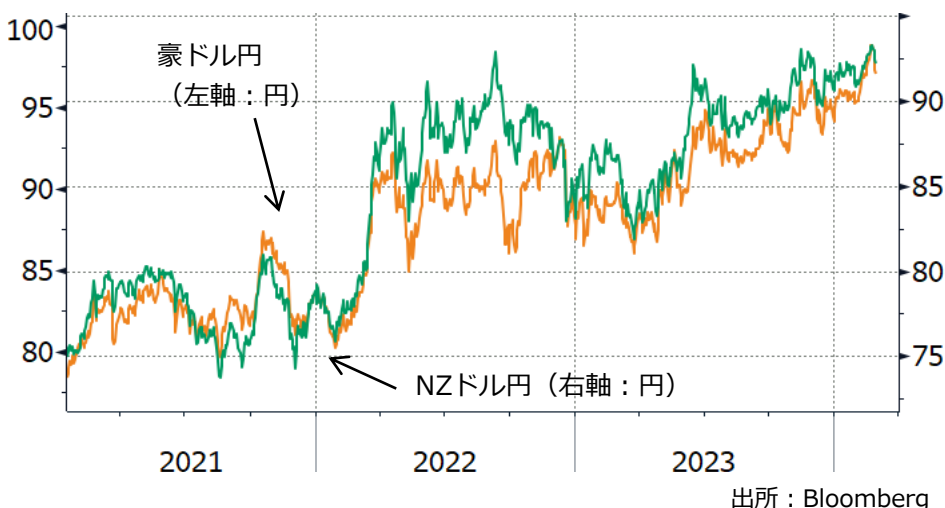
180.00 - 195.00円

相対的な利下げ開始時期の遅さから底堅い推移

2月のGBP相場は対USDで横ばい、対JPYで上昇。対JPYではマイナス金利解除後の日銀の利上げペースが極めて緩やかなものになるとの見方が広がったことや、株高によるリスク選好の動きから底堅い推移となった。

3月のGBPは横ばい圏での推移を予想する。米国経済の底堅さが意識される中で、米国の早期利下げ期待は後退しつつあり、GBPの上値を抑えよう。一方で、英国の労働需給の引き締めやサービスインフレの高止まり、また直近発表された2月のPMIも強めの結果となったことから、引き続きFRBやECB対比で利下げ開始が遅れることが見込まれており、GBPの下値も固い。2月の金融政策決定会合(MPC)では6対2で政策金利の据え置きが決定したが、インフレの着実な低下を受け、今回初めて1人が利下げを主張。景気回復の兆しがある中で、21日の金融政策決定会合の結果が注目される。対円では日銀のマイナス金利解除への動きが本格化することが見込まれる中で、上値の重い展開を予想する。

豪 ド ル ・ N Z ド ル



豪ドル円

↘ 豪ドル円は下落

95.00 - 100.00円

NZドル円

↘ NZドル円は下落

88.00 - 94.00円

徐々に上値の重い展開に

2月のオセアニア通貨は対円で上昇した。マイナス金利解除後の日銀の利上げペースが極めて緩やかなものになるとの見方が広がったことや、株高によるリスク選好の動きから底堅い推移となった。月末には豪ドル円、NZドル円ともおよそ9年ぶりの水準まで上昇する場面もあったが、一部で利上げ期待のあったNZ中銀の政策金利据え置きを受け上げ幅を縮小した。

3月のオセアニア通貨は上値の重い展開を見込む。欧米中銀の利下げが見込まれる中、2月の豪中銀理事会の議事録では利上げも検討されるなど、タカ派的。NZも一部で先行きの利上げを見る向きもあり、リスク選好の流れもありオセアニア通貨は底堅い推移が継続している。一方、豪雇用指標には一部弱さもみられるほか、インフレの低下や中国景気への不安もあり、上値も抑えられやすい。また3月以降は日銀のマイナス金利解除へ向けた動きも本格化することが見込まれることや、引き続き利上げ期待も一部残るNZドルは修正の余地も大きい。主要中銀の利上げサイクルが終了する中で、両中銀のスタンスの変化が注目される。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

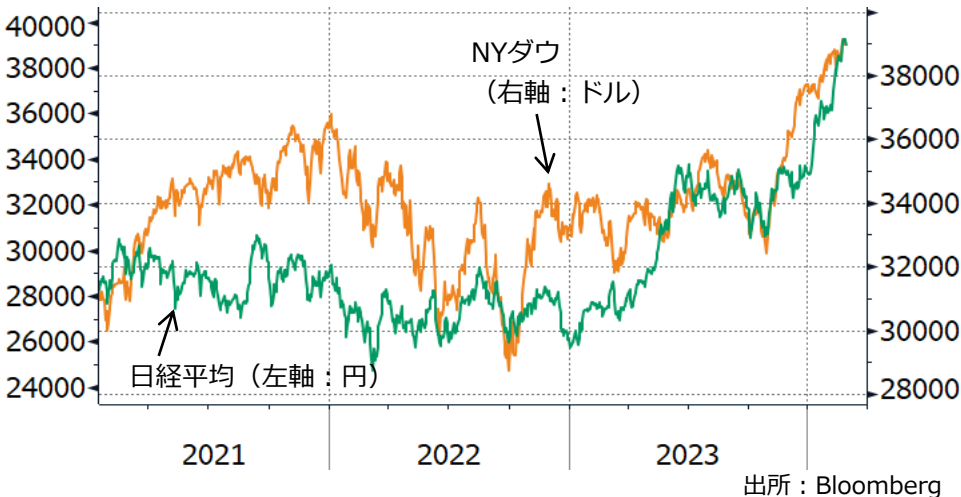
(2024年3月号)

2024/2/29

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し③ 株式、長期金利

株 式 見 通 し



日経平均

日経平均は小幅上昇

37,000 – 41,000円

ハイテク銘柄への期待は継続も年金基金の売り余地から上昇幅は限定的か

想定以上に良好な先端半導体市況から、2月の日経平均株価は大幅に上昇した。もっとも、年初からの上昇ペースはグローバルに見ても際立っており、ポートフォリオにおける各資産の構成比を一定に保つ必要のある年金基金には大きな売り余地があり、日本株の上値を抑えよう。短期的には個人投資家動向に注目。日経平均株価が最高値圏に近づくにつれ、個人投資家は売り越しに転じたが、先行きに自信を深めれば、売り手不足により、もう一段の上昇も期待できよう。

NYダウ

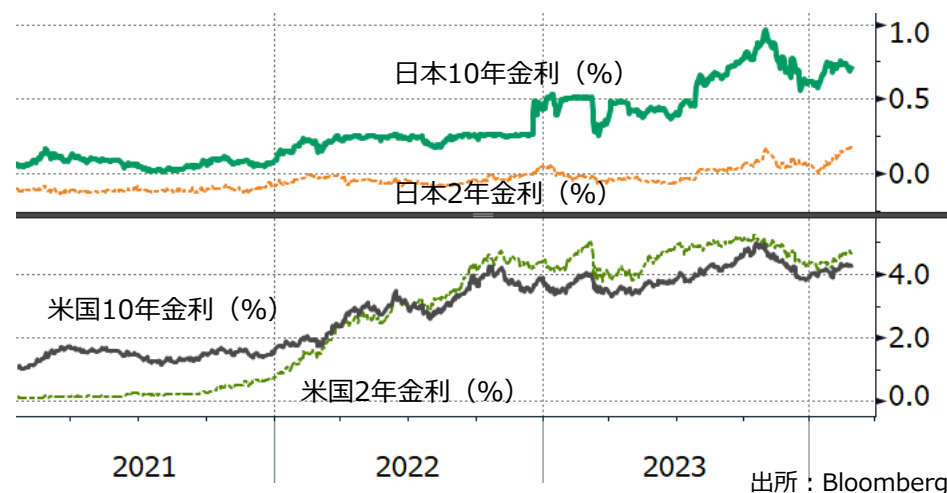
ダウは小幅上昇

37,000 – 41,000ドル

ハイテク株主導で小幅上昇を見込む。エヌビディアの好決算はバリュエーション拡張をサポート

2月のダウ平均は、エヌビディアの決算への期待を先んじて織り込む形で上昇。下旬に発表された同社の決算は市場予想以上に良好で、ハイテク株を中心に一段と上昇した。市場全体としてはEPSの伸び率が鈍化しつつあるものの、先端半導体市場への期待や底堅い米景気が継続することから楽観的ムードが優勢となり、緩やかにPERが拡張する形で株価も上昇しよう。

長 期 金 利 見 通 し



日本国債10年

金利は上昇

0.50 – 0.90%

春闘での賃上げ継続を確認し、日銀がマイナス金利解除へ

各種の事前アンケート調査等から、春闘にて前年並み以上の賃上げが実現するのはほぼ間違いないだろう。植田総裁が現在の状況を「デフレではなくインフレ」と表現していることから、日銀によるマイナス金利解除は近いだろう。日経平均株価が史上最高値近辺にあり、ドル円が150円で推移していれば、3月の会合で実施される可能性は十分にある。むしろ重要なのは、マイナス金利解除の利上げペースであり、市場の焦点も徐々にそちらに移行していきだろう。

米国債10年

金利は低下

3.80 – 4.50%

利下げ期待は既に十分後退した

2月の米国経済指標は全般的に力強く、米国経済の底堅さが意識された。特にインフレ関連指標の上振れが続いていたことから一部では利上げ再開への警戒も意識されたが、FRBの反応は比較的冷静であり、次の行動が利下げである点は揺らいでいない。過度に織り込まれていた市場の利下げ期待は既に相応に剥落しており、FRBの見通しと一致しつつある。3月FOMCの最大の注目点はドットチャートだが、大きな変更がなければ一段の金利上昇余地は限定的だろう。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

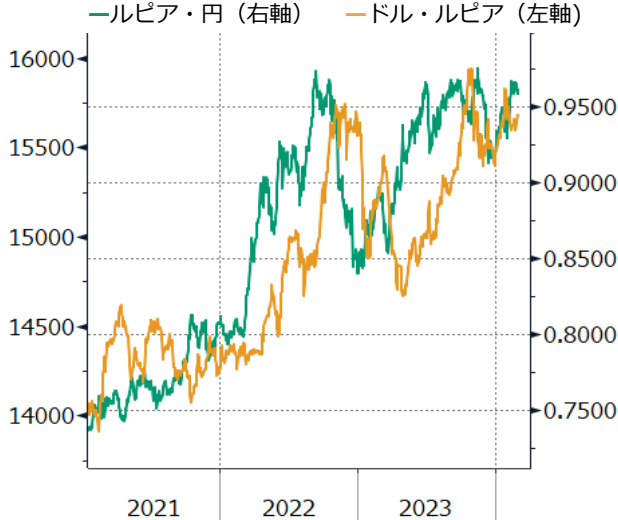
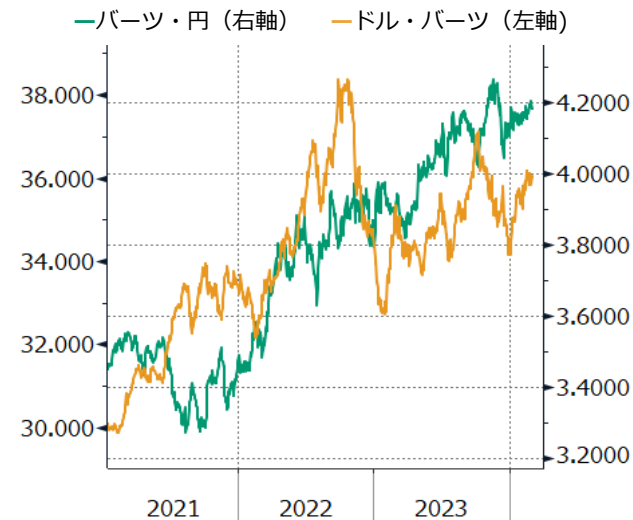
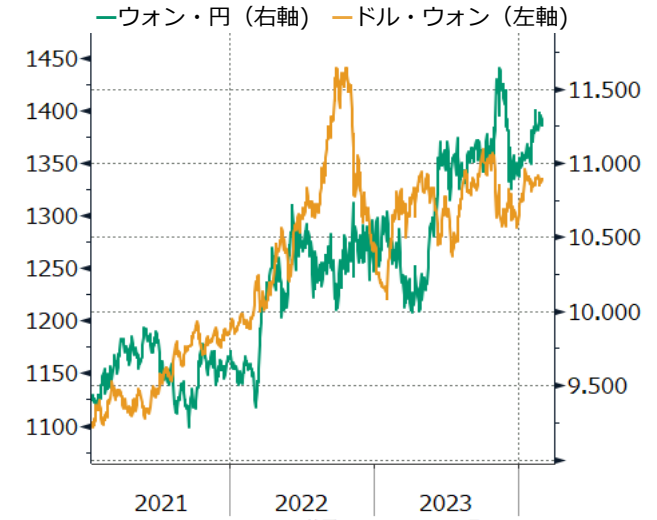
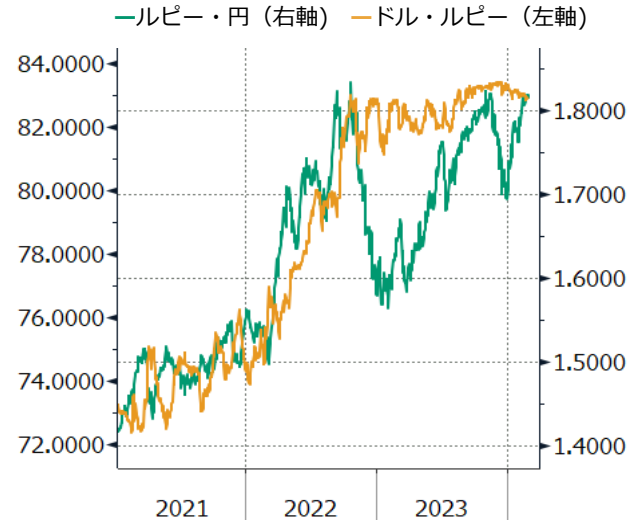
りそな マーケットフラッシュマンズリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2024年3月号)

2024/2/29

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 新興国通貨チャート



◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎ 注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー
& アジア・新興国FXフラッシュ (2024年3月号)

2024/2/29

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し④ 新興国通貨（アジア）

		2/28	2月の相場推移		3月の予想		解説
中国	人民元/円	20.89	➡	20.30～20.92	➡	19.85～21.52	2月序盤は米国金融機関の決算内容への不安などにより、ドル人民元が7.17台で推移した。しかし、その後は中国景気への不安によって、ドル人民元は7.20をやや下回る水準での推移が続いた。中国当局が株価対策を実施していることが報じられ、人民元が買われる局面もあったが、効果は持続的ではなかった。そうした中で中国人民銀行は住宅ローンの基準金利を引き下げている。中国景気に対する不安は根強く、ドル人民元は想定レンジ上限近辺での推移が続くそう。
	ドル/人民元	7.215	➡	7.17～7.23	➡	7.10～7.30	
タイ	バーツ/円	4.185	➡	4.12～4.20	➡	4.00～4.30	2月のドル/バーツは、①FRBの利下げ期待後退、②セクター首相の中央銀行への利下げ要請、③中国景気不安の3つの理由から、引き続きバーツ安が進行した。GDP成長率をはじめとして、タイ経済の減速は市場想定以上である可能性を考慮すると、市場が徐々にFRBの利下げを意識する中でも、両国の金利差が拡大する可能性がある。3月はややバーツ安が進行するとみる。
	ドル/バーツ	36.05	➡	35.23～36.19	➡	35.0～37.0	
インドネシア	100ルピア/円	0.960	➡	0.92～0.96	➡	0.92～0.97	2月のドル/ルピアは、大統領選の早期決着可能性が高まったことから一旦はルピア高が進行したものの、その後は米金利の上昇を受けてルピア安が進行。1月末対比ではややルピア高での着地となった。政治不透明感が払拭されたことから、3月はファンダメンタルズに沿った値動きになると想定。市場が徐々にFRBの利下げを意識する中で両国金利差が縮小し、ややルピア高が進行するとみる。
	ドル/ルピア	15,685	➡	15,565～15,795	➡	15,300～15,800	
インド	ルピー/円	1.818	➡	1.75～1.81	➡	1.73～1.83	2月ドル/ルピーは値動きに乏しい展開。4QのGDP成長率はやや減速することが見込まれている一方で、市場は徐々にFRBの利下げを意識し、3月の両国金利差は一進一退で推移しよう。加えて、IMFが指摘した様に、22年12月以降のドル/ルピーは変動に乏しい。当局による為替介入姿勢を考慮すると、市場予想に反した経済指標が公表されようと、ドル/ルピーの変動余地は限定的か。
	ドル/ルピー	82.93	➡	82.87～83.12	➡	82.80～83.50	
韓国	100ウォン/円	11.294	➡	10.94～11.36	➡	10.63～11.56	米国の雇用統計などが強い内容となり、米国の利下げが後ずれするとの見方により、ドル/ウォンは1,340に近い水準まで上昇した。一方、そうした変動を除けば、ドル/ウォンは1,330を挟んだ推移が続いた。韓国中銀は今回会合で政策金利を据え置き、インフレが目標に向かって低下していくと見通すことは時期尚早と説明した。そうした中央銀行の姿勢や、半導体や自動車の輸出持ち直しといった実体経済の回復もあり一方的にウォンが売られることはないだろう。
	ドル/ウォン	1,334	➡	1,320～1,340	➡	1,270～1,360	

◎ 注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー
& アジア・新興国FXフラッシュ

(2024年3月号)

2024/2/29
りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 年間為替見通し

		2024年				ポイント
		1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	
ドル円	レンジ	135～155	130～150	130～150	135～155	FRBの利下げと日銀の利上げにより、日米金利差が縮小し、徐々に上値が重くなる。
	期末値	145	145	140	145	
ユーロドル	レンジ	1.00～1.13	0.95～1.15	1.00～1.20	1.00～1.20	インフレが着実に低下していることからECBのタカ派的スタンスも和らいできており、夏までの利下げも視野に。ここまでの利上げの累積的な効果が波及しつつあり、米国対比で景気減速懸念が強いが、足元では改善の兆しもみられつつある
	期末値	1.09	1.06	1.07	1.08	
ユーロ円	レンジ	150～170	130～160	125～160	130～165	
	期末値	158	153	150	157	
ポンドドル	レンジ	1.20～1.32	1.10～1.40	1.05～1.30	1.05～1.30	依然としてインフレが高止まりしていることから、欧米対比で金融政策面ではタカ派的となりやすい。また足元経済指標には改善の兆しも見えつつあり、欧米通貨対比で底堅い推移が見込まれる。対円では日銀の政策修正への思惑から上値重い
	期末値	1.28	1.28	1.25	1.25	
ポンド円	レンジ	180～195	170～195	160～185	165～190	
	期末値	185	185	175	182	
ドル人民元	レンジ	7.10～7.30	6.60～7.10	6.40～6.90	6.20～6.70	中国から資本が流出するとの懸念を抑制する面から、中国当局によって元は下支えされ、また景気支援策によって中国経済は徐々に回復していく。FRBによる利下げ期待から米中金利差は縮小し、ドル人民元を押し下げる。
	期末値	7.15	6.70	6.50	6.40	
人民元円	レンジ	19.85～21.52	19.70～21.13	20.31～21.74	21.77～23.39	
	期末値	20.27	21.64	21.54	22.65	
豪ドル円	レンジ	95.00～100.00	90.00～100.00	80.00～100.00	80.00～100.00	豪中銀の比較的にタカ派姿勢で足元底堅く推移するも日銀政策修正の思惑で上値が重くなる。
	期末値	97.50	95.00	90.00	90.00	
タイバーツ円	レンジ	4.00～4.30	3.50～4.50	3.40～4.50	3.70～4.80	観光業の回復、景気支援策から底堅く推移するが、日銀政策修正の思惑で徐々に下落へ。
	期末値	4.12	4.09	4.06	4.35	

◎ 注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー
& アジア・新興国FXフラッシュ

(2024年3月号)

2024/2/29

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ マーケットカレンダー

	日本	米国	その他		日本	米国	その他
3/1(金)	1月労働力調査	2月ISM製造業景況指数	(中) 2月製造業PMI	3/18(月)	1月機械受注		(中) 2月生産・小売・投資
3/4(月)	10-12月期法人企業統計調査			3/19(火)	植田日銀総裁定例会見	20年債入札	(豪) 準備銀行理事会
3/5(火)	10年債入札	1月製造業受注	(米) スーパーチューズデー (予備選挙・党員集会集中日)		日銀金融政策決定会合(結果発表)	2月住宅着工・許可件数	(独) 3月ZEW景気指数
		2月ISM非製造業景況指数		3/20(水)	(春分の日)	FOMC(結果発表)	
3/6(水)		2月ADP雇用統計		3/21(木)	2月貿易統計	2月中古住宅販売	(英) BOE金融政策委員会
3/7(木)	30年債入札	1月貿易収支	(欧) ECB定例理事会			3月フィラデルフィア連銀製造業 景気指数	(欧) 3月PMI(速報値)
3/8(金)	1月家計調査	2月雇用統計		3/22(金)	2月消費者物価指数		(独) 3月IFO企業景況感指数
	2月景気ウォッチャー調査			3/25(月)	日銀金融政策決定会合議事要旨 (1/22~23開催分)	2月新築住宅販売	
3/9(土)			(中) 2月CPI			2年債入札	
3/11(月)	10-12月期GDP(二次速報値)	3年債入札		3/26(火)		3月消費者信頼感指数	
3/12(火)	2月企業物価指数	(昼時間開始)				5年債入札	
	5年債入札	10年債入札		3/27(水)	40年債入札	7年債入札	
		2月CPI		3/28(木)		10-12月期GDP(確定値)	
3/13(水)		30年債入札		3/29(金)	2月鉱工業生産	2月個人所得・消費支出	
3/14(木)	20年債入札	2月PPI			2月住宅着工件数		
		2月小売売上高			2月労働力調査		
3/15(金)		3月NY連銀製造業景気指数			2年債入札		
3/17(日)			(露) 大統領選挙(第1回投票)	3/31(日)			(中) 3月PMI



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2024年3月号)

2024/2/29

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

中国の動向-主要トピックス①

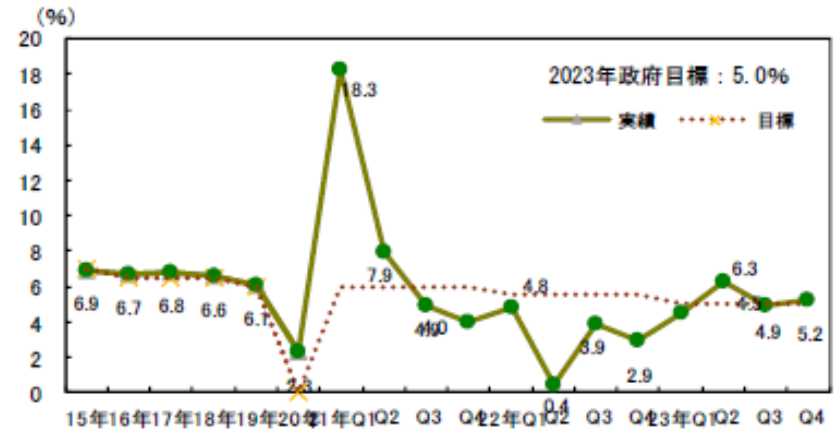
りそな銀行上海駐在員事務所

【1/26～2/1】

◎ 23年の企業利益が前年比減少 コロナ後も伸びず、年後半は回復

中国国家統計局が27日発表した2023年の工業企業利益（一定規模以上の企業対象）は、前年比2.3%減の7兆6,858億人民元（約160兆円）となり、22年は新型コロナ流行の影響を受けて4.0%減と落ち込みであり、2年連続のマイナスとなった。23年は新型コロナ対策の大幅緩和を背景に企業が回復すると見られていたが、予想に反して低迷が続いた。ただ減少幅は縮小傾向に、23年1～2月は前年同期比22.9%の大幅減を記録、後半の8月は17.2%増と好転し、以降はプラスが続いている。

中国におけるGDP増加率の推移

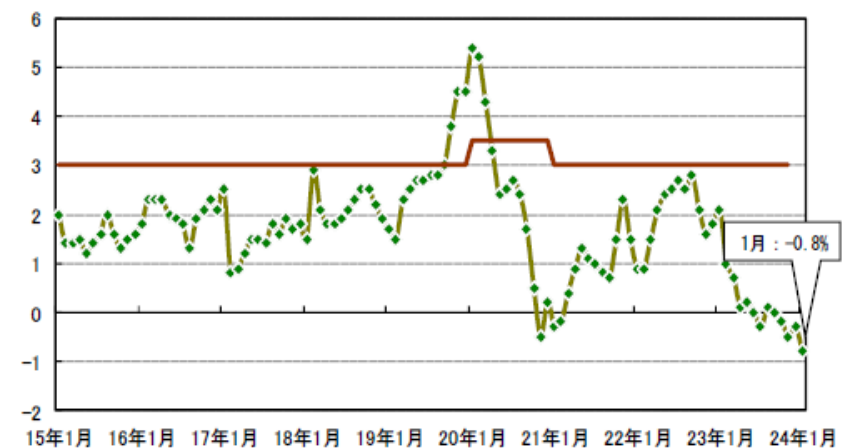


【2/2～2/8】

◎ 海外旅行者、今年1.3億人に19年の8割超、東南アジア増加へ

中国政府系研究機関の中国旅行研究院は4日、2023年中国本土から域外に旅行に出かける人が8,700万人へ回復したことを発表し、2024年には1億3,000万人になると予測した。2024年は新型コロナウイルスの影響がない2019年の84%の水準になるとの見方。2024年初国際航空便数は週に4,600便となり、年末では6,000便になると見通している。中国本土住民に対する査証（ビザ）免除を打ち出した東南アジア諸国への旅行が増える見通しだ。

月別CPIの推移(消費者物価指数)



◎ 注意事項

本資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー
& アジア・新興国FXフラッシュ (2024年3月号)

2024/2/29
りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

中国の動向-主要トピックス②

りそな銀行上海駐在員事務所

【2/18～2/22】

◎スポーツ用品で国内勢が台頭 国潮追い風により外資に優勢

中国市場調査会社の艾媒諮詢（II メディアリサーチ）の調査によると、中国の23年のスポーツ用品市場は前年比12%拡大の4,926億人民元になった。近年は中国国内ブランドメーカーの台頭が目立ち、主要外資企業である米ナイキ（NIKE）やドイツアディダス（ADIDAS）の中国事業の売上高を逆転した。中国人が国内ブランドを評価する機運「国潮」や価格面の優位性を追い風に、増収に成功している。同社は24年並びに25年は毎年10%程度の成長率と見通した。

◎新エネ車が低価額帯で攻勢10万元以下製品を続いて投入、ガソリン車が苦境

中国自動車業界団体である全国乗用車市場信息联席会から、昨年の中国乗用車市場の価額帯ごとの新エネ車の比率情報を発表した。「20万元以上30未満」が44.9%、「15万元以上20万元未満」が29.6%、「10万元以上15万元未満」が30.7%、「5万元以上10万元未満」が35.9%を占めている。春節連休明けに、低価格車種を発売したり、値下げを行ったりしている。10万元以下の市場でシェアを取ろうとする姿勢を鮮明化。幅広い価格帯で新エネ車のラインアップが充実しつつあり、ガソリン車はさらに苦しい状況に陥りそうだ。

主要経済指標

<月次データ>

項目	単位	2023/3	2023/4	2023/5	2023/6	2023/7	2023/8	2023/9	2023/10	2023/11	2023/12	2024/1
実質GDP成長率	%	4.5	-	-	6.3	-	-	4.9	-	-	5.2	-
消費者物価上昇率	%	0.7	0.1	0.2	0	-0.3	0.1	0	-0.2	-0.5	-0.3	-0.8
都市部調査失業率	%	5.3	5.2	5.2	5.2	5.3	5.2	5.0	5.0	5.0	5.1	-
輸出額	10億ドル	302.5	288.2	281.0	283.5	280.8	283.9	296.5	274.3	292.7	303.6	-
輸入額	10億ドル	225.4	203.1	216.0	214.0	201.4	216.6	221.2	218.1	223.3	228.3	-
経常収支	100万ドル	81,530	-	-	146,257	-	-	209,038	-	-	264,238	-
外貨準備高	10億ドル	3,183.9	3,204.8	3,176.5	3,193.0	3,204.3	3,160.1	3,115.1	3,101.2	3,171.8	3,238.0	3,219.3
主要政策金利	%	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35
対ドル為替レート	人民元	6.89	6.89	7.00	7.16	7.19	7.25	7.30	7.31	7.22	7.14	7.17

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：1年物貸出基準金利

出所：Bloomberg

◎注意事項
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2024年3月号)

2024/2/29

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

“上海下午茶”（上海からティータイム）

りそな銀行上海駐在員事務所

○春節の豫園(よえん)ランタン祭り

上海市にある豫園（よえん）は、400年以上の歴史を持つ、中国江南を代表する庭園です。現在開催されている第29回豫園灯会（豫園ランタンフェスティバル）は、毎年、旧正月（旧暦のお正月）の時期に合わせて開催されており、まさに上海の旧正月の風物詩です。

豫園灯会のテーマは毎年変わるため、毎年違った飾り付けの灯籠を楽しめます。今年2024年のテーマは「山海経」中の「海経」です。昨年「山経」の続編として、海経のランタンの点灯が2024年1月21日に始まりました。主催者によると、今年の豫園灯会は辰（干支）、山海の古典（テーマ）、中国の伝統（文化）、これら3つのキーワードをデザインし制作しました。山海経で実際に登場する不思議な生き物たちを模した灯籠がたくさん用意されています。特に中央広場のメインランタンである海を飛び越える飛龍と九曲橋の池に派手に彩られた数々の灯籠がとても幻想的で、歩くとなんだか不思議な世界に迷い込んだような気になってきます。

そして、豫園ショッピングモールもテーマに合わせて、海と川のイメージを作り出し、干支の龍が広大な海洋動植物の王国と調和して共存するワンダーランドを演じています。地元の人と大勢の観光客が飾り灯籠の織りなす美しい光景に誘われて訪れるとともに、写真撮影に勤しんでいます。旧正月期間中に上海に来る機会があれば、ぜひ訪れてみてください！



○初めてのクルーズ旅行

中国初の国産大型クルーズ船「愛達・魔都号（アドラ・マジック・シティ）」は2024年元日に正式に運航を始めました。魔都号は8年の研究開発と5年の建造期間を経て就航しました。全長323.6メートル、重量13万5500トンのクルーズ船は、2125の客室、22のレストランとバーを備え、5246人を収容できる十分な広さを持っています。

魔都号の竣工により、中国国内大型クルーズ船の空白が埋まりました。中国はドイツ、フランス、イタリア、フィンランドに続き、大型クルーズ船を建造できる5番目の国となりました。

私は2/1に上海市呉淞口国際クルーズターミナルを出航し、韓国の済州島、日本の長崎の4泊5日のクルーズ旅行に参加しました。

初めてということもあり、船酔いや楽しめるか不安でしたが、乗船してみると、ショーやイベントがたくさんあり、子供も楽しめる内容を毎日開催していました。

また、寄港地の済州島では有料ツアーに参加し、観光スポットと市場に行き、地元の美味しいものを食べて満足でした。

長崎は自由行動で、グラバー園を見学してから電気軌道バスに乗り、浜町アーケードで買い物して楽しい時間を過ごせました。

「愛達・魔都号」はこれから中国⇄東南アジア諸国のクルーズ航路に就航し、短・中・長距離を結びつけた多様な観光・レジャーの選択肢を提供する予定です。

◎注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー
& アジア・新興国FXフラッシュ (2024年3月号)

2024/2/29
りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

タイの景気動向 りそな銀行バンコック駐在員事務所

◆12月の国内経済、成長鈍化

タイ中央銀行は、2023年12月の国内経済の成長は前月より鈍化したとの見方を示した。世界的な景気減速に伴い、タイの輸出と製造業が低調だった。鉱工業生産指数は前年同月比6.3%下落し、15カ月連続の下落となった。自動車について、ファイナンスの厳格化と、電気自動車の輸入が増加した影響もみられる。民間投資指数は同1.8%減少した。設備投資および建設投資ともに減速した。一方、民間消費と観光業は引き続き国内景気を支えている。民間消費指数は同5.9%増加した。非耐久財消費とサービスを中心に拡大した。外国人観光客数も前月より好調に推移している。

◆2024年1月CPI、4カ月連続で下落

タイ商務省が発表した2024年1月の一般消費者物価指数（CPI）の平均値は、前年同月比で1.11%下落した。前年の反動が出たことに加え、政府が燃料小売価格や電気代を引き下げたこと等が全体を押し下げた。分野別では、食品・飲料が前年同月比1.06%減、非食品が

同1.13%減とそれぞれ下落した。

◆2023年の輸出額、3年ぶり減

タイ商務省によると、2023年の輸出額は前年比1.0%減の2,845億6,180万米ドルと、3年ぶり減少した。農産物・加工品の輸出は前年比0.7%減、主要工業製品も同1.0%減少した。国別では、米国向けが前年比2.8%増の488億6,500万米ドルと最多。日本は3番目で、0.1%増の246億7,000万米ドルだった。2023年の輸入額は前年比3.8%減の2,897億5,430万米ドルで、貿易収支は51億9,250万米ドルの赤字となった。2024年の輸出額について、商務省は前年比1.99%増の約2,900億米ドルを目標に掲げた。

◆2024年1月の対米ドル平均相場

1月の対米ドル・パーツ相場は平均で1米ドル=35.18パーツで、前月の34.94パーツからパーツ安となった。

主要経済指標

<月次データ>

項目	単位	2023/3	2023/4	2023/5	2023/6	2023/7	2023/8	2023/9	2023/10	2023/11	2023/12	2024/1
実質GDP成長率	%	2.6	-	-	1.8	-	-	1.4	-	-	1.7	-
消費者物価上昇率	%	2.8	2.7	0.5	0.2	0.4	0.9	0.3	-0.3	-0.4	-0.8	-1.1
失業率	%	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1	1.0	1.0	1.0	1.0	-
輸出額	100万ドル	28,004	21,794	24,459	25,395	22,143	24,280	25,476	23,579	23,480	22,792	-
輸入額	100万ドル	24,731	23,000	25,994	24,528	24,121	23,920	23,384	24,411	25,879	21,819	-
経常収支	100万ドル	4,540	54	-2,832	1,725	-1,054	484	3,171	665	-1,244	2,107	-
外貨準備高	10億ドル	224.5	223.5	220.8	218.2	220.7	216.9	211.8	210.9	219.1	224.5	221.6
主要政策金利	%	1.75	1.75	2.00	2.00	2.00	2.25	2.50	2.50	2.50	2.50	2.50
対ドル為替レート	パーツ	34.5	34.3	34.3	34.9	34.6	35.0	35.9	36.5	35.5	34.9	35.2

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：タイ翌日物レボ金利

出所：Bloomberg

◎ 注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー
& アジア・新興国FXフラッシュ (2024年3月号)

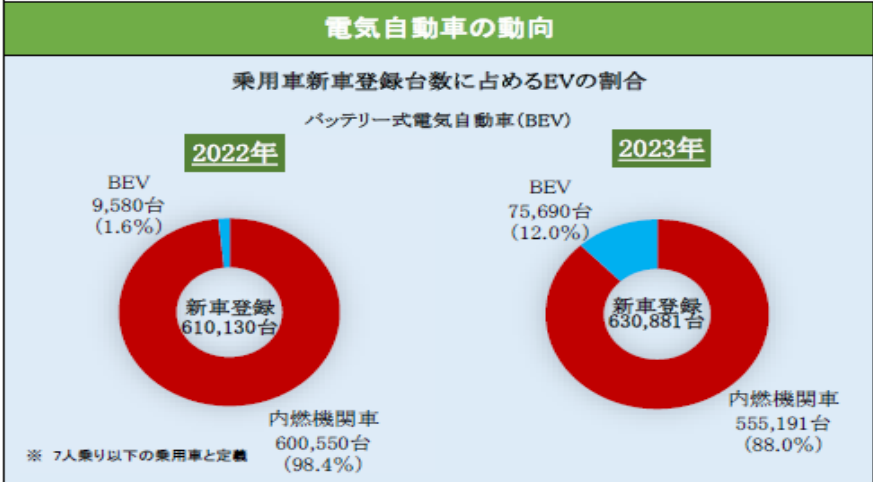
2024/2/29
りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

タイにおける自動車産業の動向

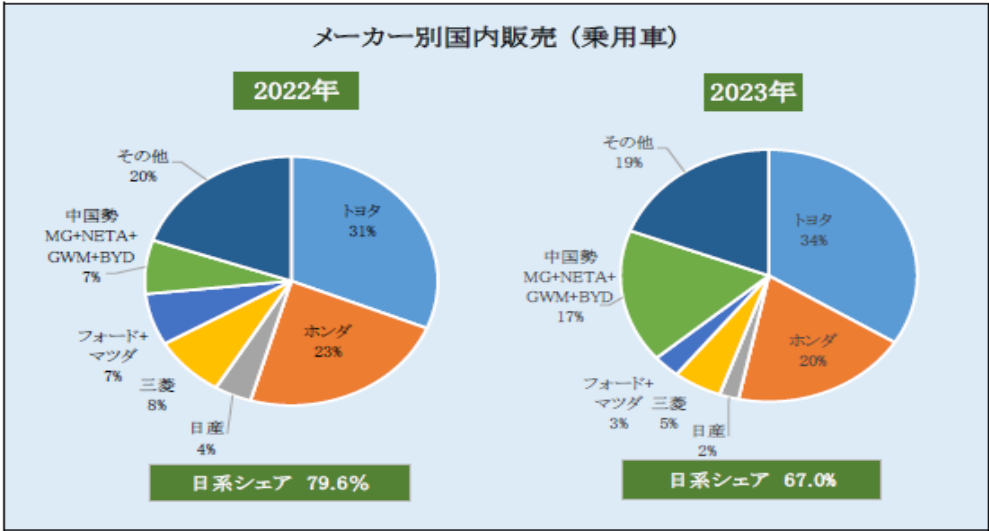
りそな銀行バンコック駐在員事務所

生産・国内販売・輸出の動向							
		2020年	2021年	2022年	2023年 (1-12月)	前年同期比 (%)	12月
【台数】 四輪	生産台数	(台)					
		乗用車	542,437	599,844	600,839	648,803	108.0
		商用車	884,533	1,085,861	1,282,676	1,192,883	93.0
	合計		1,426,970	1,685,705	1,883,515	1,841,686	97.8
	国内販売台数	乗用車	274,789	251,800	265,069	292,505	110.4
		商用車	517,357	507,319	584,319	483,275	82.7
		合計	792,146	759,119	849,388	775,780	91.3
	輸出台数	735,842	959,194	1,000,256	1,117,539	111.7	90,305
二輪	生産台数	1,615,319	1,780,654	2,015,940	2,120,738	105.2	164,528
	国内販売台数	1,516,096	1,606,481	1,792,016	1,856,814	103.6	132,377
	輸出台数	727,152	965,967	1,034,840	822,608	79.5	76,573
【完成車輸出金額】 (百万バーツ)							
四輪		410,912	561,147	619,348	719,992	115.3	62,500
二輪		85,802	75,985	73,729	68,589	93.0	5,764

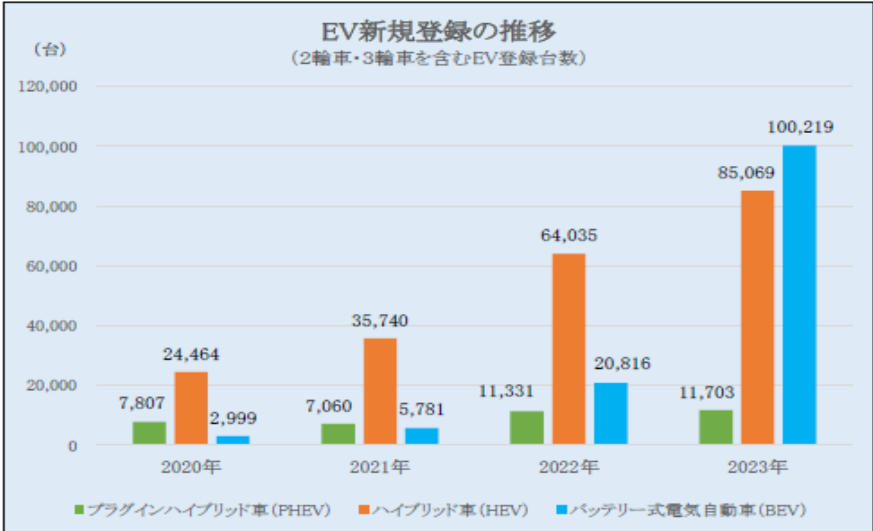
出所:タイ工業連盟 (FTI)



出所:タイ運輸省陸上運送局のデータを基に作成



出所:タイ国Toyota自動車のデータを基に作成



出所:タイEV協会、タイ運輸省陸上運送局